令和８年度第１回伊勢原市障がい者とくらしを考える協議会　会議録

開催日時　令和８年７月７日（火）　14：00～16：00

開催場所　伊勢原市役所　２C・２D会議室

出席者

委　員　　中越委員、岡西委員、清水委員、新實委員、石川委員、青柳委員
山岡委員、杉本委員、濱本委員、藤村委員、館委員、山岸委員、
高野委員、早乙女委員、長谷川委員、綿貫委員、鈴木委員、瀬戸委員

専門部会　杉崎委員、小木委員、小澤委員、望月委員、長尾委員、矢野委員

事務局　　障がい福祉課　職員２名

議題

（１）日中サービス支援型指定共同生活援助の評価について

（２）令和８年度各専門部会の取組について

（３）第８期障がい者計画・障がい者福祉計画及び第４期障がい児福祉計画策定について

（４）第１回湘南西部保健福祉圏域自立支援協議会について

（５）その他

経過

１　あいさつ

部長あいさつ

委員等自己紹介

２　会長・副会長の選出

会長・副会長あいさつ

議題

（１）日中サービス支援型指定共同生活援助の評価について

GH ソシオ KUKUNA 伊勢原　及び　GH シャルム MAKANA 伊勢原

（会長）

日中サービス型支援指定共同生活援助は、サービスの質を確保する観点から、地域が設置する協議会等に対して評価会議にて評価を受けることが義務付けられています。昨年、当協議会において、企画運営会議で評価会議を行った後に、その内容を協議会に報告する方法が承認されました。協議会委員の皆様に事前にいただいた御意見についても事業所から回答いただいているので、報告いたします。

－　報告・評価シート案に基づき報告　－

（委員）

ククナが３年目で、この協議会で意見を言わせていただいていたら、それに従って少しずつ支援の力もついてきているのかなというのが見えてきて、マカナはまだ始まったばかりという印象です。地域の中では絶対必要なサービスなので、是非良いものになっていって、私たち親が安心して見ていられるグループホームになっていただきたいと思います。それには委員の皆さんと協力しながら意見を言っていくことが一番いいと思います。

（会長）

ありがとうございます。入居者に市外の方が多く、市内の方が少ないので、相談員が入る機会が減っていると思います。市内の方が多ければ、伊勢原市の相談員が積極的にモニタリングに行き、現状を把握して、そこでコミュニケーションを取っていくと、もう少し現場に近い形でお話ができると思います。市内で利用されている方は、ぜひ相談員が積極的に入ることや、事業所との連携を図っていただけたらいいのではないかと思います。当事者としての御意見はいかがですか。

（委員）

当事者の意見は拾いにくいと思いますが、アンケートを年に１回とるなどの規定により本音が出てくるといいなと思います。

（会長）

ありがとうございます。そういったところをうまく相談員が引き出していけるといいのかなと思いました。他に御質問等ありますでしょうか。それではいただきました御意見等を反映し、報告評価シートを確定して確認の上、事業所に提出いたします。

（２）専門部会の取組について

（事務局）－　協議会及び専門部会の概要説明　－

○相談・地域支援部会

相談・地域支援部会は、今年度９回の開催予定。第１回は、関係者紹介と障がい福祉課長あいさつ、令和７年度の実績報告、令和６年度の決算及び令和８年度の予算についての報告。８年度の活動計画については、グループスーパービジョンの振り返りと基礎研修を実施することで、地域の支援力の向上を目指すことを確認した。

第２回は、昨年度実施した２件のグループスーパービジョンの振り返りを行った。１件目は、家族をストレングスと着目することで家族関係の改善や支援計画の構築につなげたという報告により、ＧＳＶの学びや効果を共有し、相談支援専門員自身の視点を柔軟に見直すことに重要性を感じたとの報告があった。２件目は、８０５０問題を背景とした事例でインフォーマルの地域資源に目を向ける支援や、サービス等利用計画における等の部分の支援をどのように広げていくかについて報告し、アセスメントの見直し、支援の視点を広げる重要性を改めて学ぶ機会になった。

基礎研修のテーマは、アンケートにより「連携・チームアプローチの具体的な技術」に決定し、１１月の部会を予定している。

第３回は、精神障がい者支援部会との合同開催で、テーマは「にも包括について」行政の職員や支援事業者による報告会を行った。誰もが地域で安心して暮らし続けるために、多機関が連携しながら、支援体制を構築していく考えが改めて大事であると学ぶ機会となり、グループワークでは既に実践している支援や連携が「にも包括」であることを参加者で深める機会となった。

今後の予定として、第４回は、７月１４日に権利擁護部会と合同で、「知っておきたい成年後見制度」というタイトルで、成年後見制度の基本的なことについて、伊勢原市成年後見・権利擁護推進センター職員による講演を予定している。その後、グループワークを通じて、制度理解や支援の活用について学びを深めていくとのこと。

（会長）

湘南西部圏域ナビゲーションセンターから御意見などいただければ。

（委員）

伊勢原市は、平成２６年度ぐらいから、この部会で ＧＳＶに積極的に取り組まれている。セルフプラン率が極めて低いというところは、行政、自治体と、また市内各機関の皆さんの長年の積み重ねであることは間違いないと思う。この部会は相談支援事業所以外の事業所も参加できるようになっていて、広く開かれた中で活動した結果、手法とか考え方という土壌が積み上げられ、相談事業に興味関心を持つ事業所も増えて、基盤が広がってきたという背景があると思う。これまでの振り返りを含めながら、より実践的にという流れは、今後も継続していただきたいと思うし、圏域担当者としては可能な範囲で一緒に参加し、情報共有させていただければと思う。

〇権利擁護部会

第１回は、令和７年度の障がい者・高齢者虐待対応相談件数の報告、令和７年度の振り返り、今年度の取組内容を確認した。

第２回は、相談支援部会と合同開催で、成年後見制度の研修を予定している。

第３回は、障害者週間街頭キャンペーンを行う予定で、事業所一覧を配布したらどうかという意見交換を行った。

（会長）

施設の中での権利擁護について、お話しをいただければ。

（委員）

当社会福祉法人でも各事業所が研修計画を立てており、権利擁護の研修も行っている。具体的な虐待防止について、権利擁護の研修を行うとともに、研修後の振り

返り等もやっていければと思う。

１２月に当法人が主催で研修会を例年どおり行う予定。皆さんと共有できる権利擁護の研修なので、多くの方の参加をお願いしたい。

〇こども支援部会

こども支援部会は、年５回開催を予定。

第１回は２９名の参加者で、５グループに分かれ、各事業所の課題や取組についての情報交換を行い、事業者向けに直接支援関係、保護者関係、そして事業所関係、その他という分類でアンケートを実施した。

直接支援関係では、今まで活動の中で一番良かったと思われる活動や自慢してみたいことを共有することとし、1 日の最後に「頑張ったね　ノート」を書いているということや、外出支援がお子さんたちには良い経験であるとの御意見があった。スマホなどで活動の様子を保護者の方に配信するととても喜んでいただけたという話や、水遊びが自宅での洗車のお手伝いにつながったというエピソードもあり、普段話し合う機会がないので、この情報交換の場を活用できた。

保護者関係では、保護者のニーズで伝達方法が課題として上がり、伝えなければいけないことをLINE やメールの文字情報で伝えてしまうと、かえって誤解を生んでしまうことや、伝えるべきことで、少しネガティブなお話とかは、口頭でしっかりお伝えした方がいいのではないかという話があった。

事業所関係では、人材不足もあり、スタッフに外国籍の方を検討するという話があり、日本に来て言葉を覚えることが間もない方でも、実は子どもたちと単語で話し合えて、分かり合えているという話もあり、そういう側面もあると改めて感じた。

また、社会的な課題だと思うが、求人サイトや紹介会社が増えてきて、人手不足のところを中抜きされていると感じる、各事業所で人手不足のところに、そういう業者が多く入ってきて、費用がかかって大変だという話もあった。

放課後等デイサービスや児童発達支援では実績払いのため、お休みによる運営維持が難しい時の対応の話や、放課後等デイサービスの学校送迎は、必須ではないがサービスの一環としてどこも行っているという状況下では、学校送迎について苦慮されているという意見があった。

令和８年度の取組は、虐待防止の研修会、１０月には相談支援部会と合同での事業所見学ツアー、こどものＧＳＶ検討会、１年の振り返りという年間スケジュールを予定している。

（会長）

今、人材不足のお話がありましたが、学生の就職先はどのような状況なのでしょうか。

（委員）

はい、ありがとうございます。皆さんには実習やボランティア、就職で大変お世話になっております。残念ながら年々このような状況なのか、社会福祉やメンタルヘルスに関心がある学生はそんなに変わらないですが、就職先として最後にそこを選ぶかとなると、そういう学生は年々減ってきているように感じます。どうしても行政の方に行きがちであり、就職活動の始まりは一般企業が圧倒的に早いので、早く内定をもらいたいというところで、それを覆す機会がないまま、就職も福祉系ではないところになってしまうということがあって、我々も現場の魅力みたいなものをどのように学生に伝えることができるのだろうと日々思っているところです。就職を斡旋する業者さんが、学生の方にすごく入って、次々といい条件の会社が紹介されるなかで、これに福祉系の事業所や医療機関が食い込むことの難しさを感じています。

（会長）

ありがとうございます。どこの事業所も人材不足は大変な課題かなと思います。他に何か御質問等ありますでしょうか。子どもの虐待の関係から御意見等ありますでしょうか。

（委員）

ここ数年で社会的にも児童虐待に関しての意識が高まり、相談件数が増えていて、相談対応が若干追いつけてないのではないかと不安を抱えているので、皆さんの御協力がないと子どもたちを救えないと日々思っています。

また、こども未来課では母子手帳の発行をしていますが、数年前に比べて発行件数が減少しているなかで、外国語の母子手帳の件数は増えていて、支援を受けるお子さんについても外国籍の方が増えるのかなと思うと従事してくださる外国籍の方も大事にしていただきたいと、ニーズは今後高まっていくのではないかと思っています。

○災害時支援部会・当事者部会

第１回は、当事者部会と災害時支援部会の合同開催で、令和８年度の活動内容では、市の総合防災訓練の変更について話があった。

地区巡回型の総合防災訓練は、自主防災会の訓練時間が３０分ほどしか確保できないことが課題となっていたため、今年度から総合防災訓練と地区防災訓練を分離し、総合防災訓練は市民向けの防災フェスタとして開催する方針となった。

防災フェスタは、１１月２１日に中沢中学校で開催し、展示体験ブースを中心とした内容とし、市民の防災意識向上と参加者の拡大を目的としている。

地区防災訓練は、１１月１日、比々多小学校を会場として避難所運営訓練を実施する予定。避難者受付から避難所レイアウトまで一連の避難所運営を体験する実働訓練で、要配慮者への対応も訓練内容に含まれ、当事者の参加を通じて課題を把握する機会とする。その一方で、会場の駐車場不足や参加者支援体制の整備が課題と

して挙げられた。

当事者部会としては、防災フェスタでは、展示ブースによる啓発活動を行う方向で検討し、展示内容は、災害時の障がい者支援に関するパンフレットの配布や震災関連資料の展示、来場者との対話による啓発活動が提案された。

避難所運営訓練は、要配慮者訓練の参加を通じて避難所運営上の課題を検証する方向性が示された。

当事者部会としては両事業に関わりつつ、各委員の都合の良いいずれか一方で参加する選択制が提案された。

次に、伊勢原支援学校主催の夏祭りについて、例年どおり水消火器体験など防災に関する内容で協力することとなった。

研修については、事業所の避難訓練に対する消防からの助言と福祉避難所開設後の運営に関する学習ということで、事務局を中心に後日決定していく。

また 権利擁護部会が実施する障害者街頭キャンペーンについては、協力可能な範囲で参加することとなった。

次回の勉強会は、「身近な生活の中で感じた差別や不便について」をテーマに、日常生活における困り事や差別と感じる事例を共有し、意見交換を行う。

(会長)

はい、ありがとうございます。御質問等ありますか。伊勢原支援学校の夏祭りに協力ということですが、何かあれば。

(委員)

夏祭りは、障がい福祉課と危機管理課、消防と協力してやらせていただく予定です。７月２９日水曜日の午前中に開催し、段ボールベッドの組み立て体験や、はしご車の乗車、水消火器体験を予定している。

夏祭りの目的としては、伊勢原支援学校を地域の方に知っていただくこと、放課後等デイサービスや関係する事業所にも、本校と関わりのある方々とより関係を深める目的で今年度もやらせていただきます。よろしくお願いします。

(会長)

社会福祉協議会では、防災に関しての取組や情報等ありますでしょうか。

(委員)

防災の関係で言いますと、今年は防災フェスタという形で、１１月に中沢中学校で開催するということですが、毎年実施されていた総合防災訓練の中で社会福祉協議会は大規模災害が発生すると災害ボランティアセンターを運営しますので、啓発を兼ねて設置運営訓練を実施して、その防災訓練に参加された方々にも、その流れを体験していただいています。大規模災害が発生すると、テレビ等でボランティアが活動している様子が報道されますが、実際災害が起きた時にボランティアへの依頼や活動についてどこに相談をすればいいのかというのは、迷う方もいらっしゃる

と思うので、その辺の周知について今後力を入れていきたいと考えています。

〇就労支援部会

第１回は、事前アンケートをもとに、自己紹介及び各機関事業所の近況報告と意見交換を行った。さらに令和７年度就労支援事業利用実績と障がい者相談支援事業実績の報告。令和８年度の取組は、雇用促進セミナーと企業見学を予定。障がい福祉事業所説明会を７月３日土曜日に開催し１６の施設事業所が参加。来場者は３８組来場され、御家族で来られていた方を含め５０名前後の方が来場し、事業所、来場者とも昨年より多くの方に参加いただいた。

各支援学校の１年生、２年生で、今回は海老名にある高等支援学校の生徒やその保護者が多く来られた。進学の半数は福祉事業所や就職に結びつくということで、学校からのアナウンスにより参加したというお声をいただき、サービスのお話からさせていただいた。この夏休みに見学に来ていただけるので、夏休み前に障がい福祉事業所説明会を開催できて良かったと思っている。

（会長）

はい、ありがとうございました。雇用促進セミナーについて御意見があればお願いします。

（委員）

就労支援部会の活動で、昨年度は企業見学や雇用促進セミナーの依頼を受け、雇用促進協議会の協賛としてアマダプランテックの見学やセミナー講師など協力させていただいた。企業側としては７月１日から障がい者の法定雇用率が０．２%上がっており、市内企業どこも、障がい者の採用意欲が活発になっておりますので、御協力できることがありましたら、ぜひよろしくお願いしたいと思っております。

（委員）

今年度の雇用促進セミナーは講師が決まりまして、小田急電鉄の特例子会社の、業務課長に講師をお願いしています。駅員の宿舎や事務所の掃除をしている事業所で、拠点が ５、６事業所あり清掃活動をしています。講師は昔ロマンスカーの運転士をしていたということなので、運転の話も聞けたりすると思いますので、電車好きな方で就労を目指している当事者の方にぜひお越しいただければと思います。

平塚市では就労移行支援事業所だけを集めた事業所説明会を７月１６日の木曜日、平塚市中央公民館で １時半から行います。移行支援事業所が増えてきまして、移行だけで説明会を行いたいと思いますので、移行支援を計画している事業所の方がいられたら、ぜひお越しいただければと思います。

（会長）

ありがとうございます。いろいろな情報提供いただきました。職業安定所から情報などありますでしょうか。

（委員）

ハローワークとしては障がい者と企業とのマッチングを行っています。今月から障がい者の雇用率がアップしていますので、障がい者雇用を考えていられる企業からの相談があります。今までに障がい者雇用の経験が多くない事業所だと、まずその障がいについての理解が、車椅子を使っている方だというイメージを持たれている事業所が多いと感じていまして、まずそこの理解を進めるところから、事業所を訪問して説明しています。最近ですと、精神障がいの方が増えており、実際に雇用している事業所でも、そのサポートをどうするかと悩まれているところもありまして、周りのサポートをうまく進めるために、仕事サポーターの養成講座ということで、事業所に出向いて開催をしていますので、少しでも、就労につなげていければいいかなと考えております。

（会長）

ありがとうございます。能力開発センターの最近の状況などいかがでしょうか。

（委員）

はい。障がい者の法定雇用率がアップするということで、県等から連絡をいただいております。また、保護者の方もそういった状況をよく承知されておりますので、所内で行っている相談会や説明会等に出席していただいています。雇用については広がってきているけども、実際に受け入れということになると、それまでの学校のように保護的なところまでいかないので、自立して社会人としてというところを求められます。そこをどうやって橋渡ししていくかというところが、我々としても以前からの課題ですし、さらに新しく雇用を始める企業様については、そういった点が受入の課題として大きいのかなと思っております。

（会長）

ありがとうございます。では、精神障がい者支援部会長お願いいたします。

〇精神障がい者支援部会

精神障がい者ピアの集い及び精神障がい者支援部会を開催。当事者の交流の場であるピアの集いは、１月と６月に伊勢原シティプラザで開催している。

第１回は当事者８名、支援者５名の１３名。リラックスする時間や伊勢原のおすすめスポットをテーマに語り合った。

第２回は当事者１３名、支援者５名の１８名。２グループに分かれ、行ってみたいところや好きな歌手について活発な意見交換が行われた。

第１回精神障がい者支援部会は、第３回相談・地域支援部会と合同で開催され、４２名の方が参加された。

第１部では、「つながるから始まるにも包括の第１歩」をテーマに、にも包括の報告会及び地域課題の掘り起こしに関するグループワークを実施した。伊勢原市で

は、にも包括について検討する会議を、精神障がい者支援部会の一部をコア会議として位置づけたこともあり、まずは支援者が、にも包括について理解を深めること、特別なことではなく、日頃の支援のつながりが大切ということを知っていただくことを目的に実施した。

第２部では、８年度の年間計画について検討し、第２回は、精神科病院の医師を講師とした事例検討会を予定している。

ピアの集いは、１０月以降の３回をピアサポーター養成事業所の「心の笑顔」と共催で、運営をピアサポーターが中心に行う形に移行する提案がされた。理由としては、現在の課題として、支援者の参加人数が当事者を上回っており、当事者からも話しづらいという意見があったこと。また、県のピアサポーターとの連携不足が挙げられている。ピアサポーターとの連携は地域移行という観点からも必要だと考えている。

しかし、今までのピアの集いを居場所とされていた方もおりますので、今年度は、全６回のうちの日曜日開催の５回は今まで同様に開催し、１０月の平日開催の１回と別日にプラスアルファで２回、ピアサポーターとの連携が取れないか、調整している。

家族サロンは、例年どおり年２回開催とし、講演会は１１月１日日曜日に、テーマは「発達障がい」として幅広く周知したい。

(会長)

はい、ありがとうございました。精神障がい者を支える事業所連絡会から御意見等ありますでしょうか。

(委員)

ピアサポーターの件については、まだ腑に落ちないので、もう少し検討していかないとと思います。ピアの集いはもう長く続けてきているので、それをサポーター養成に持っていってしまうのは、趣旨が違ってくるかなという思いもあるので、様子を見ながら、できるだけ事業所の皆さん、ピアの方たちにいい方向を見つけていただいてと模索しているところです。

(会長)

はい、ありがとうございます。平塚保健福祉事務所では何か推進の方針等ありますでしょうか。

(委員)

平塚保健福祉事務所の秦野センターでは、精神保健福祉に関する様々な会議、例えば、精神科医療機関との会議やにも包括会議、自殺対策の会議、精神保健福祉の協議会など開催しており、この場に参加している皆様にも御出席いただき、連携をさせていただいております。にも包括の会議は、精神障がい者にも対応した地域包括ケアシステムの構築に向けた会議を、伊勢原市も既に実施されて、コア会議として実施されておりますが、今年度から当所でも主催で開催をしております。管内で

あります伊勢原市や秦野市と広域的な視点で体制づくりに向けて共有し、活発な意見交換ができております。他の精神保健事業も含めて、引き続き皆様と連携していきたいと思っております。よろしくお願いします。

（会長）

それでは続きまして、当事者部会よりとなりますが、先ほど災害時支援部会との合同開催として御説明をいただいておりますので、当事者部会として補足などございましたら、当事者部会長より御報告お願いいたします。

○当事者部会

１つだけ補足させていただくと、１１月９日に中沢中学校で福祉体験授業を行う予定。５年目になるが、私たちの事業の中心的なものと受け止めている。中学生に様々な障害の特性を当事者たちが話す。これは私たちも勉強になりますし、中学生にとっても参考になるのではないかと思っている。この事業を中心に一年間の活動をしていきたい。

（会長）

ありがとうございました。続きまして、医療的ケア等支援部会長お願いいたします。

○医療的ケア等支援部会

年４回開催のうち、 第１回は年間スケジュールを確認した。第２回は、事業所見学会を６月に開所した医療的ケアが必要な方向けの日中支援型グループホームに９月７日に行う予定。項目２番の実態把握は、伊勢原市内の医療的ケア児者、重症心身障がい児者のリストについて、名前を伏せた状態で大枠の傾向を共有した。項目３番の事例共有は、私から皆様に共有させていただいた２ケースの報告。１ケース目が医療的ケア児の幼稚園通園についての事例で、伊勢原市の医療的ケア支援事業を活用し、訪問看護ステーションの看護師が幼稚園に行って、ケアをしていただくことで、幼稚園に通うことができたという報告です。２ケース目が日々の通園先を探していた医療的ケア（胃ろう）が必要なお子さんの事例で、こちらのお子さんは、居宅訪問型児童発達支援事業を利用していたが、通所を希望され、市内の児童発達支援事業所の通所を始めていたところ、市外の児童発達支援事業所にも通えることができるようになったという事例です。

（会長）

ありがとうございます。平塚支援学校での取組で情報提供等がございましたらお願いします。

（委員）

県の医療的ケア児通学支援事業の活用で、福祉車両等事業者への委託により、通

学ができるようになったということもあり、今後も精査しながら、より良い形にしていけるよう心がけていきたいと思います。例年 1 月頃に児童の情報が分かります。医療ケアの方々の選択肢が少ないということは、もう長く課題になっており、進路や放課後等デイ、卒業後の住む場所にしても、部会で情報をいただきながら、保護者の方々に声が届くような形で活用できればと思っています。

(会長)

はい、ありがとうございました。

（３）第８期障がい者計画障がい者福祉計画及び第４期障がい児福祉計画について

(会長)

障がい福祉課長より御説明お願いいたします。

(委員)

－計画策定の概要説明について、計画の策定体制、スケジュール、アンケートの調査状況、計画の構成、計画期間について説明－

アンケート調査結果から見た現状と課題は、事業の進捗状況や障がい福祉サービスの利用状況調査により文言等の変更があります。また、基本理念につきましては、障害者基本法の目的をわかりやすい文章で表しているものですので、現行計画どおりと考えており、計画の構成や基本理念につきまして、御意見等がございましたら、7 月末日までに事務局まで任意の様式で構いませんので、お知らせくださるようよろしくお願いいたします。

(会長)

ありがとうございました。

（４）第１回湘南西部保健福祉圏域自立支援協議会について

(会長)

湘南西部圏域地域生活ナビゲーションセンターより御説明をお願いいたします。

(委員)

はい。本日は参考資料としてナビだよりを配布させていただきましたが、圏域の自立支援協議会は今週金曜日１０日に開催させていただきます。圏域事業といたしましても、本日各部会の皆さんから御報告いただいた内容と重なる部分は多くございまして、相談支援事業を軸にしながらグループホーム、また重症心身障害あるいは医療的ケアのある方、そしてにも包括にかかる事業展開を市町の皆様の御協力をいただきながら進めてまいりました。令和８年度も引き続き取り組みます。昨年度の圏域の協議会で伊勢原の相談事業所から事例に基づいて、医療的ケア、あるいは行動障害のある方の緊急時の１次保護支援やレスパイト、あるいは居所支援について、施設かグループホームかというところがなかなか難しい、そういった方々の、

日々の暮らしをどう支えたらよいのかという課題の御報告をいただきました。

こちらは伊勢原市に限らず、湘南西部圏域に限らず、全県あるいは全国共通した課題の中で、令和８年度から神奈川県の障害サービス課で、２市８町の県西圏域とこの湘南西部圏域で、レスパイトや居所支援、緊急時の対応で社会支援がなかなかアクセスしにくい方々の支援をどうしていこうかというようなことを検討する事業が県単事業として挙がっております。まだ具体的にはこれからとなりますが、今週金曜の圏域の協議会では、その点も委員の方々に情報共有をさせていただいて、年度を通してすぐに何か解決できる課題ではないのは十分承知しておりますが、また、伊勢原市をはじめ、圏域多くの皆様の御協力をお借りしながらですね、つないでまいりたいと思いますので、引き続きよろしくお願いいたします。以上です。

（会長）

ありがとうございます。今の御説明の中で御質問等ありますでしょうか。いいですか。それでは何か協議会全体を通して何か御質問等はございますか。

それでは、本日の議題についてはこれで終了いたしました。

皆様には進行に御協力いただき、また有意義な御意見いただきまして、本当にありがとうございました。最後に副会長から閉会の御挨拶をお願いいたします。

（副会長）

それでは皆さん、本日は大変お疲れ様でした。皆様、日々大変お忙しいことと思います。御自身の健康に御留意いただきまして、ますます協議会を活性化していただけたらと思います。今後ともどうぞよろしくお願いします。

（会長）

はい。では最後に事務局の方にお返しいたします。

（事務局）

会長、議事進行ありがとうございました。これで第１回伊勢原市障がい者とくらしを考える協議会を閉会といたします。次回は１０月６日火曜午後２時時から会場は市役所分庁舎会議室にて開催いたします。御多忙とは存じますが、どうぞよろしくお願いいたします。本日はお忙しいところ御参加いただきありがとうございました。

以上